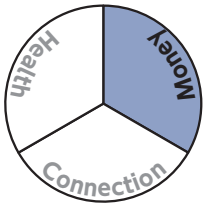
各国の主要政治・経済イベント予定（10月7日時点）



11月の各国主要政治・経済イベント

	日本	米国	グローバル
上旬	立皇嗣の礼（8日）	10月ISM製造業景況指数（2日） 大統領選挙（3日） 10月ISM非製造業景況指数（4日） FOMC（4-5日） 10月雇用統計（6日）	（中）10月財新製造業PMI（2日） （中）10月貿易収支（7日）
中旬	10月貿易統計（18日）	10月消費者物価（12日） 10月鉱工業生産（17日）	（中）10月鉱工業生産（16日） ASEANサミット（11-15日）
下旬	10月鉱工業指数（30日）	10月個人消費・所得（25日） FOMC議事録（26日）	G20首脳会議（21-22日）

（注）作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。

11月の政治・経済イベント「大統領選挙（米国）」

米国の大統領選挙は、4年ごとに11月の第一月曜日の翌日の火曜日に実施されます。2020年の大統領選挙では、共和党からはトランプ氏、民主党からはバイデン氏が出馬しています。新型コロナウイルスへの対策や米中通商問題をはじめとした外交政策、人種差別問題など、米国を取り巻く問題が山積する中で、選挙戦の動向は大きな注目を集めています。

米国大統領選挙では、有権者の投票によって州ごとに割り当てられた選挙人が選出され、選出された選挙人が大統領候補者に投票を行う、間接選挙制を採用しています。多くの州では伝統的に支持政党が決まっているため、Swing State（揺れる州）と呼ばれる、共和党・民主党の支持率が拮抗し、勝利政党が揺れ動く州での勝敗が、大統領選挙の勝敗の鍵を握ります。ほとんどの州において、その州で多く票を獲得した候補者が、その州に割り当てられた選挙人を全て獲得できる勝者総取り方式を採用しているため、総得票数で下回る候補者が大統領に選出される逆転現象も生じることがあり、特に選挙人の割り当て人数の多いフロリダ州などのSwing Stateでは激戦が繰り広げられることになります。実際、前回トランプ氏が勝利した2016年の大統領選挙やジョージ・W・ブッシュ氏が勝利した2000年の大統領選挙など、逆転現象が発生した大統領選挙は過去にしばしばみられています。

今回の大統領選挙では、新型コロナウイルスという例年に無かった要因も加わり、波乱含みの展開となっています。コロナ禍を背景とした郵便投票の増加や選挙集会の制限、トランプ氏自身の新型コロナウイルスへの感染など、選挙戦への影響は必至です。大統領選挙への注目が一層高まっています。　（副主任エコノミスト：小池 理人）